

佐原沢

一九七七年十月九日

◆天気(晴)

大平温泉で身仕度をして七時ジャストに遡行開始。西・安田・菅野の順に進む。一五分位遡行したところで三〇位の滝に出くわしたがわけなく直登した。木の葉も落ちかけ、秋の終わりを感じさせ、ふれる水も冷たく夏のこち良さとはまるで違う。

ゴルジュがしばらく続く。次の小滝で左岸を高捲きしF2五位の直下の枝沢ぞいにおりる。F2とそれに続く二つの小滝を直登し七時四二分F3三〇位のさしかかる。とても直登は無理。右岸をなるべく小さく捲き沢に降りた。八時F4七位のさしかかる。この直前右側から小沢が合流している。F4を直登し一〇分たらずでF5四〇位に出くわした。少しハングミ。水量は少ないが直登はとも無理である。右岸を捲き沢に降りた所がF6二〇位の階段状の滝。すみやかに直登し終わると水量もぐんと減り、もう沢も終わりに近づいた感じで



佐原沢・F3

ある。九時二一分二俣につく。

この先何もないことはわかっているし、もう既に目的は達したので左の沢を少し登って、九時三五分ヤブこぎに入る。約五〇分で登山道に出る。(記)

〔タイム〕

大平温泉七：〇〇—二俣九：二〇—沢終了九：三五

明道沢

一九七六年九月五日

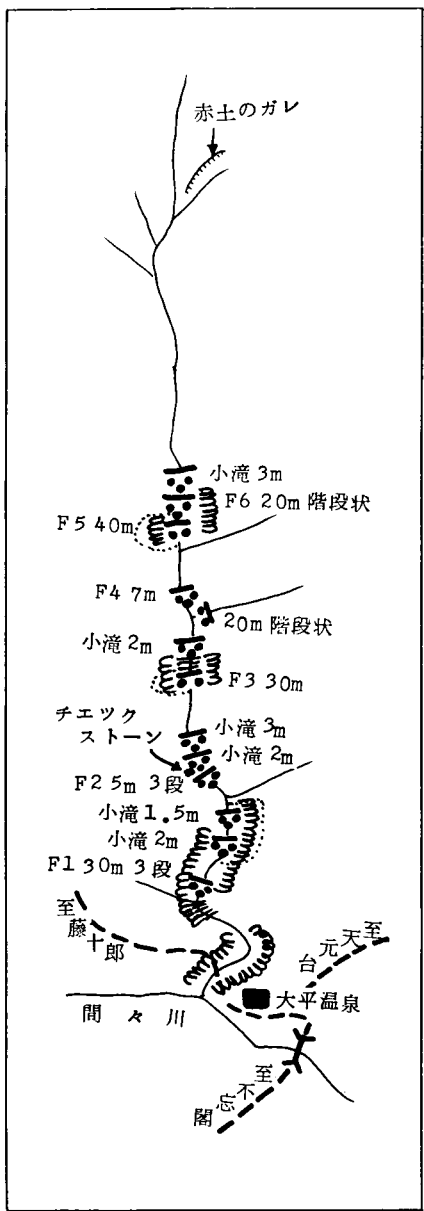
◆天気(曇のち晴)

く。左岸を高捲きして簡単に越えるが、ママ河原より上流ではこれが最大の滝である。

一二時に二俣に着く。右俣の方が水量も多くこちらに入る。小滝が三つ連続しているがいずれも簡単に直登する。もう滝もかからなくなり、水量も減り、岩にコケがついてきて沢も終わりだと感じさせる。

一二時五〇分、沢は細い流れとなつてヤブの中に続いているのを見てヤブこぎに入る。一時間で弥兵衛平にとび出す。

(記・)



佐原沢 (作図:)

〔タイム〕

大平温泉八・五五—ママ河原一〇・四〇—二俣一二・〇〇—沢終了一二・五〇

〔追記〕

間々川は松川の上流部にあたる。逆行図はあわせて一枚の図として表示した。